

# (NPO) 川越蔵の会

代表者	原 知之
所在地	〒350-0062 埼玉県川越市元町1-12-2本町の長屋
設立年月日	1983年05月11日
URL	http://www.kuranokai.org/
会員数	192名(2009年6月末)

## 【設立趣旨】

蔵造りの町並みとして、今でこそ川越の大きな魅力のひとつとなっている市街地北部に位置する一番街商店街周辺地区は、江戸時代から続く城下町の中心として栄えて来た。しかし、1960年代以降、伝統的な商家建築は古くて使いづらいとしてその多くが壊されてきた。また、中心市が駅のある市街地南部に移動し、一番街商店街をはじめとする北部地区は、活気もなく人通りのない商店街として徐々にさびれつつあった。一方、このころにはマンション建設問題が発生し、まちづくりに対する住民意識が高まりつつある時期でもあった。そのような中1983(昭和58)年に住民主体のまちづくりや商店街活性化による景観保存などを旨として「川越蔵の会」が設立された。それまでは文化財や建築関係の大学の学識者などが川越の蔵を残すよう提案しても、それが住民運動的なものには結びつかなかったものが、商店街と周辺の若手が集まり、自分達で町づくりをしようと議論したのが発足のきっかけである。



現在の川越

## 【沿革・活動目的】

川越蔵の会は、以下の3つの目標を掲げて発足した。

- (1) 住民が主体となったまちづくり
- (2) 北部商店街の活性化による景観保存
- (3) 町並み保存の為の財団形成

蔵の会が発足した1980年代という、ようやく住民参加という言葉が一部の行政から出始めた時代であったのに対し、当会では住民主体をいち早く主張したことが特徴である。行政と市民の役割を認識し、行政に対して提言や苦言を述べるとともに、会の考え方に一致するときは協力をおしまないという姿勢を貫いてきた。また当会では自主的な活動だけでなく、住民が頑張っているまちづくりへのアドバイスや協働を通して、住民主体のまちづくりを推進してきた。中でも「旧川越織物市場」や「鏡山酒造跡地」など大規模な歴史的建造物の保存や活用問題の際に、川越に関心をよせる様々な専門家と住民を結びつける役目を果たした。

全国的に試みられている建物の保存を通しての商店街活性化を目指したのではなく、商業活動そのものを活性化することで、蔵造りの町並みを保存しようと考えたことに特色がある。これは、歴史的建造物や伝統的町並みを、保存さえすれば観光資源として商店街が活性化出来るという当時の風潮に対し、個々の商店の商業力がなければ、伝統的な建物の維持さえも出来ないと考えたものである。この点、行政主導で観光地化を進めた他の多くの地域とは一線を画している。蔵の会の勉強会の成果を受けた一番街商店街では、『蔵を残して活用するのではなく、商店街が活性化しないと蔵が残せない、まず商店街を活性化させる必要がある』と示唆を受け、歴史的町並みを活かした商店街づくりを始める。そして、1999年には長年の懸案であった重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けることとなった。この1999年には、当会の川越の町づくりにおける主導的な役割が評価され、創設されたばかりのグッドデザイン賞特別賞アーバンデザイン賞を受賞した。町並み保存のための基金設立と、行政等に対抗できる責任を持った団体として活動するために、財団の形成を目標にあげた。しかし、財団形成は実現していないものの、2002年特定非営利活動法人の認証を受けることとなった。

## 【活動内容】

全ての活動は「まち」を意識し様々なイベントは市民参加の楽しみとともに「まち」にエッセンスを与える。

- 伝統文化の川越への導入と定着化(お茶会、曲水の宴)
- 歴史的建造物の保存運動とその活用(旧鏡山酒造、旧川越織物市場)
- ・山崎家別邸：地元庭師の協力、お掃除会・コンサート→その後、市が取得、

- 市指定文化財に指定された。
- 市内にある新たな魅力発掘(まちなか職人展)
- 設計コンペの支援
- シンポジウム、蔵詩句(くらっしゅ)大賞※川越蔵の会独自の景観賞・建築賞
- 一番街町並み委員会、大正浪漫委員会への専門家派遣
- ※地元商店街の景観諮問機関
- 歴史的建造物の調査



川越曲水の宴



大正浪漫委員会専門部会



職人イベント

## 【活動上の課題と今後の展望】

### <課題1>

新たな市民団体を作ることへの多くの市民への理解と協力、そして、先人との対立。

#### (工夫)

蔵の会発足以前の町並み保存にかかわってきた諸先輩方を運動に取り込んだこと。このことによって、活動主体及び活動方法などは、新たなメンバーと方針によったが、先人たちの活動を尊重することによって、従前の活動の継承とみなされ、既存団体との対立を招かなかったこと。

### <課題2>

#### 地域の市民エゴに陥る危険性

#### (工夫)

関係する住民だけでなく、市内外に居住する蔵造りの町並みの行く末に関心をもった市民や、研究者等をはじめとする広範囲な立場の方々を会員にすることによって、より客観的なさまざまな議論をすることができた。このことは、外部の専門家と川越市民を結びつけることによって、蔵造りの町並みの活性化をはじめとする歴史的資産を活かした町づくりにおける市民活動への理論や知識の供給元となった。また、専門性に特化するのではなく、イベント等を通じて市民をはじめ幅広い層・団体を取り込みながら町づくりの推進を図った。さらに、行政任せにするのではなく、お掃除会や活用実験イベントなど、自らが主体的に活動した。

### <今後の展望>

これまでの活動の中心は、伝統的建造物の保存活用を中心とした活動であったが、建築や都市計画に強い会員も多数いるということから、川越市の将来像を見据えた町づくり全般について提言や活動を広げる要求が強くなってきている。したがって、伝統的建造物だけでなく、川越市の都市問題全般について意見や提言、他団体へのアドバイス等を的確にできるようにしていきたい。また、重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする市内に保存されている伝統的建造物の調査・修理に対するスキルアップを目指し、よりの確かなアドバイスができるようにしたい。また、これまで通り、行政とは一線を画し、協働や協力できることは積極的に手を取り合うとともに、問題がある場合には、それなりに意見等を述べられるような緊張した関係を築いていきたい。さらに、より広範囲な市民や諸団体との交流を通して、歴史と文化をはぐくみながら持続的な町づくりを実践していきたい。